

Nagano Nippo

重労働軽減に一役 ヤマウラがマッスルスーツ導入

掲載日時 2016-1-27 6:01:00 | トピック: 経済

駒ヶ根市の総合建設業ヤマウラは、体に装着して少ない力でしゃがんだ姿勢から立ち上がることができる補助装置「パワーアシストスーツ」(マッスルスーツ)を導入した。現在、中川村にある小渋ダム下流の河川工事現場で、斜面に玉石を積む作業に採用し、作業員の重労働の負担軽減に一役買っている。

装置は、国内の数社が介護現場での作業や、工場での荷物運びなどを目的に開発した。重さは約4キロ。作業員が背負った金属の骨組みに内蔵するゴムチューブへ、エアークOMPRESSORの圧縮空気を送ることにより、腰と腿(もも)に装着した器具を強制的に開く仕組み。腰の動きを補助することで、重量のある物を身体的負担を減らして持ち上げることができる。

小渋ダム下流の護岸工事は一つ30~40キロの玉石を面積約1500平方メートルに約3万個敷設する内容。建設業界は石工など専門技能者の高齢化と若手の人材不足も顕著で、同社では現場を管理する大嶋邦親さん(39)が、作業員の負担軽減と若手の人材育成を目的に同スーツの導入を試みた。専門のリース会社から1か月6万円で借りている。

現在の工事では玉石をダンプカーで運搬後、さらに重機で現場近くへ運び、その後は一つずつ壁面に並べる作業を繰り返す。実際にスーツを着て作業する細田宗生さん(25)は「慣れると装着に違和感はない。石を持ち上げる時に腰に掛かる負担が少なく、作業は楽」と実感する。

一方で、今は腕に対する補助装置がないため、石の荷重が両腕に集中したり、コンプレッサーとスーツをつなぐホースが移動範囲を狭くする難点もある。大嶋さんは「現在のスーツは建設専用ではなく、福祉、工業用の流用。理想は弊社とメーカーの共同で建設業専門のスーツを開発できれば今後の若い人材の確保にもつながると思う」と夢を膨らませた。

長野日報 (Nagano Nippo Web)で、さらに多くのニュースを読むことができます

<http://www.nagano-np.co.jp/>

このニュースが掲載されているURL:

<http://www.nagano-np.co.jp/modules/news/article.php?storyid=36180>

Copyright 2005 The Nagano Nippo. All rights reserved.